

人権教育だより『ひだまり』 第1号

令和5年7月20日発行

人権感覚の涵養 ～他者の人格を尊重し、自己肯定感の向上を図ろう～

江津工業高等学校 人権教育担当

夏休みがはじまる前に🌻

早いもので1学期が終わろうとしています。1年生は高校生活がスタートし、人間関係や生活環境などが大きく変わりました。2・3年生は学校のなかでの立ち位置が変わりました。それぞれ、どのような1学期間を過ごしましたか？一区切りをきっかけに振り返ってみましょう。それとともにせっかくの夏休み。学校以外で過ごす時間が多くなるとともに、さまざまな人と関わるチャンスです。いろいろな経験を重ねながら、まわりの人を大切にすることばや行動についても考えてみましょう。

1学期の人権教育の振り返り

本校では、重点目標のひとつめに、「人権感覚の涵養」を掲げています。人権感覚について、次の詩を読んでみましょう。また、「涵養」とは時間をかけてゆっくりと養っていくことです。学期ごとに人権教育のホームルーム活動がありますが、そのときだけでなく普段の生活の中でも人権感覚をみがいて、自分の大切さとともにまわりの人の大切さを認められるようになりましょう。

「人権感覚」ってなんですか

それはケガをして、苦しんでいる人があればそのままずおりしないで「大丈夫ですか」と助け励ます心のこと

「人権感覚」ってなんですか

それは悲しみにうち沈んでいるものがあれば見て見ぬふりをしないで「一緒に考えましょう」とともに語らう心のこと

「人権感覚」ってなんですか

それは偏見と差別に思い悩んでいる人があればわがことのように感じて「そんなことは許せない」と自らすすんで行動する心のこと

「人権感覚」ってなんですか

それはずおりしない心 見て見ぬふりをしない心

他者の苦悩をわが苦悩として人間尊重のために行動する心のこと



桑原律 詩集『光は風の中に』

人権に関するホームルーム

5月から6月にかけて人権教育のホームルームを行いました。学年ごとのテーマで人権について考えました。

1年生「望ましいコミュニケーションのあり方について」

嬉しくなる言葉、悲しくなる言葉から、どのようなコミュニケーションが望ましいかを考えました。

～感想～

- ・ふだん何気なく会話をしているけどもしかしたら気づいてないだけで人を傷つける言葉を言ってしまうかもしれないので、少しでも会話をするとき、考えて話したいと思いました。
- ・ノリだとしても悪口を言ったら相手が嫌な気持ちになるからダメだと思った。

2年生「差別の歴史から学ぶ」

室町時代の東山文化にたずさわる人々の思いから、差別のはじまりがどのようなところにあるのかを考えました。

～感想～

- ・差別に加担しない人間になるためには、人を全員平等と思うことから始めればよいと思った。そうすれば（差別は）減る
- ・人それぞれの価値を知ることが大切だと思う
- ・今回の授業を通して、私が感じたのは差別されても自分がする側にならない事の大切さです
- ・差別する側に絶対になりません。差別に加担しないために自分も努力しようとおもいます

3年生「就職差別の問題を考えることにより人権感覚を磨く」

今後、誰もが受けることになる就職試験をもとに、就職差別の実態（「就職差別につながるおそれのある14事項」の質問）とその取り組み、さらに自分たちがどのように差別に対処していくべきかを考えました。

～感想～

- ・現代の世の中は昔よりも差別がなくなり、能力や意欲で評価されるようになってきているなかで、自分がやらないといけないことをきちんとやるべきだと感じました。
- ・この授業をしてみて、自分たちはすごく守られているんだなと思いました。日々を無駄に過ごすことが多いなと感じていたので、もっと自分の能力を磨くように、日々生活していこうと思いました。
- ・今日の面接や履歴書の話聞いて、私もなにも考えず差別をしてしまっていたかもしれません。なので、もっと使う言葉も考えようと思いました。

人権教育講演会

「想像 から 創造へ」

6月26日に、生徒・保護者・教員を対象に講演会をおこないました。

マイノリティの視点からのものづくりについて、そもそもマイノリティとは何か、という話や、ユニバーサルデザインについての事例紹介などもふまえて、グループワークをしながら、考えを深めることができました。

「人権×ものづくり」という新たな視点での講演により、日々の学びと人権のかかわりについても気づくことができました。

～感想～

- ・少し不自由なだけで、不自由ではない人との差は大きすぎることに気が付きました。みんな同じ人間で、みんな幸せに暮らしたいはずなのに、それができないことがひとりの人間として悲しくなりました。自分にできることは少ないけれど、もっとよりよい世界にしていこうために自分にできることを探していきたいです。
- ・今回の講座を聞いて、これは社会全体で考えていく必要があると思いました。自分たちが考えたことをもっといろいろな人たちに伝えることができたなら、よりよい社会できるのかなと思いました。
- ・社会が変わらない限り、障がい者にとって満足することができないと思います。もちろん費用もあると思いますが、それ以上に価値があると思います。なので少しでも早く対策できることは変えていきたいと思っています。

ハラスメントに対する相談窓口について

学校生活のなかで不当な扱いをされていていやだと感じるがあったときには校内に相談窓口を設けています。次の先生方に相談してください。

ハラスメント相談員の先生 ※（ ）内は普段在室している職員室です

- ・・・教頭先生、松原先生、菅原先生（第1職員室）、
須藤先生（保健室）、森口先生、田村先生（進路指導室）、無津呂事務長（事務室）